



【活動目標】支援現場での三障害一元化を目指し、障害者の存在それ自体を我が事とする価値観をもって、諸事業に真摯に取り組みます

障サ協
広報紙

山口県障害福祉 サービス協議会通信

発行：山口県障害福祉サービス協議会 広報委員会 〒753-0072 山口市大手町9番6号
電話：083-924-2799 FAX：083-924-2798 メール：syougai@yg-you-i-net.or.jp

会員事業所紹介（第21回）

ゆったりとした自然のなかで「自分らしさ」を引き出す

長門福祉作業センター

広報委員が会員事業所を訪問し、支援現場の雰囲気に触れながら、職員や利用者との関わり、事業所の特色やアピール点、課題や悩み等についてお聞きする、会員事業所紹介です。

今回は、就労継続支援B型「長門福祉作業センター」をご紹介します。お話を伺ったのは、施設長の松尾要さんです。

1. 開所の経緯をお聞かせ下さい。

松尾：昭和58年に身体障害者通所授産施設「長門福祉作業センター」を定員20名で開所しました。その後、平成21年4月から自立支援法に基づく新

事業体系で、定員34名の就労継続支援B型と定員6名の就労移行支援の多機能型事業所となりました。

就労移行支援事業は、平成28年6月以降、就労訓練の利用率が無く、平成30年度末で事業を廃止しました。現在は就労継続支援B型事業のみです。

長門福祉作業センター

設置法人：社会福祉法人 福祥会
実施事業：就労継続支援B型
施設長：松尾 要
〒759-4102 長門市西深川2987-1
TEL. 0837-22-4430 FAX. 0837-22-4460

松尾：以前は40名近い利用状況を教えるのが大変でした。現在の状況を教えるのが大変です。現在の状況を教えるのが大変です。現在の状況を教えるのが大変です。



施設長 松尾 要氏

利用者がありました。令和2年度以降は入院や施設入所、高齢化などで契約終了が新規契約を上回っています。現在の利用者は26名です。年齢は24歳から71歳までで平均は42歳くらいです。新規利用者の獲得が課題となっています。

以前は身体障害や知的障害の方が多かったのですが、最近は精神障害の方の割合が増えています。支援で大切にしていること意識していることがあったら教えてください。

松尾：室内の軽作業が中心だからこそ、働く場として基本となる行動指針を明確に示しています。理念は「自分らしさ」ですが、その行動指針に「信頼関係・創意工夫・自己実現」を掲げ、利用者やご家族、職員同士の信頼関係の構築や工夫を

心がけています。利用者にも、支援する側にも必要不可欠だと思います。毎日の終礼会では利用者の状況を職員間で共有し、利用者の情緒面も考慮した作業場所の振り分けなど、環境調整を行っています。利用者の小さな変化に気づくためには話をすることが大切です。作業は毎日同じことの繰り返しですが、今日はどうだったか、忘れないように利用者と話をするので気づくことがあると思っています。

4. 事業所の特色やアピール点を教えてください。

松尾：現在は室内作業が中心です。下請けで自動車のゴム部品や菓子箱の組み立て、縫製部品作業などをしています。外作業では清掃業務や草取り、施設外でのプラスチック製容器包装類を仕分けるリサイクル作業を行っています。

基本は週5日ですが、週2〜3日の方もおられます。段階的に日数を増やし、仕事に慣れていってもらっています。障害者就労・生活支援センターやハローワーク、相談支援事業所などと連携し、令和元年度以降、

令和元年度以降、